

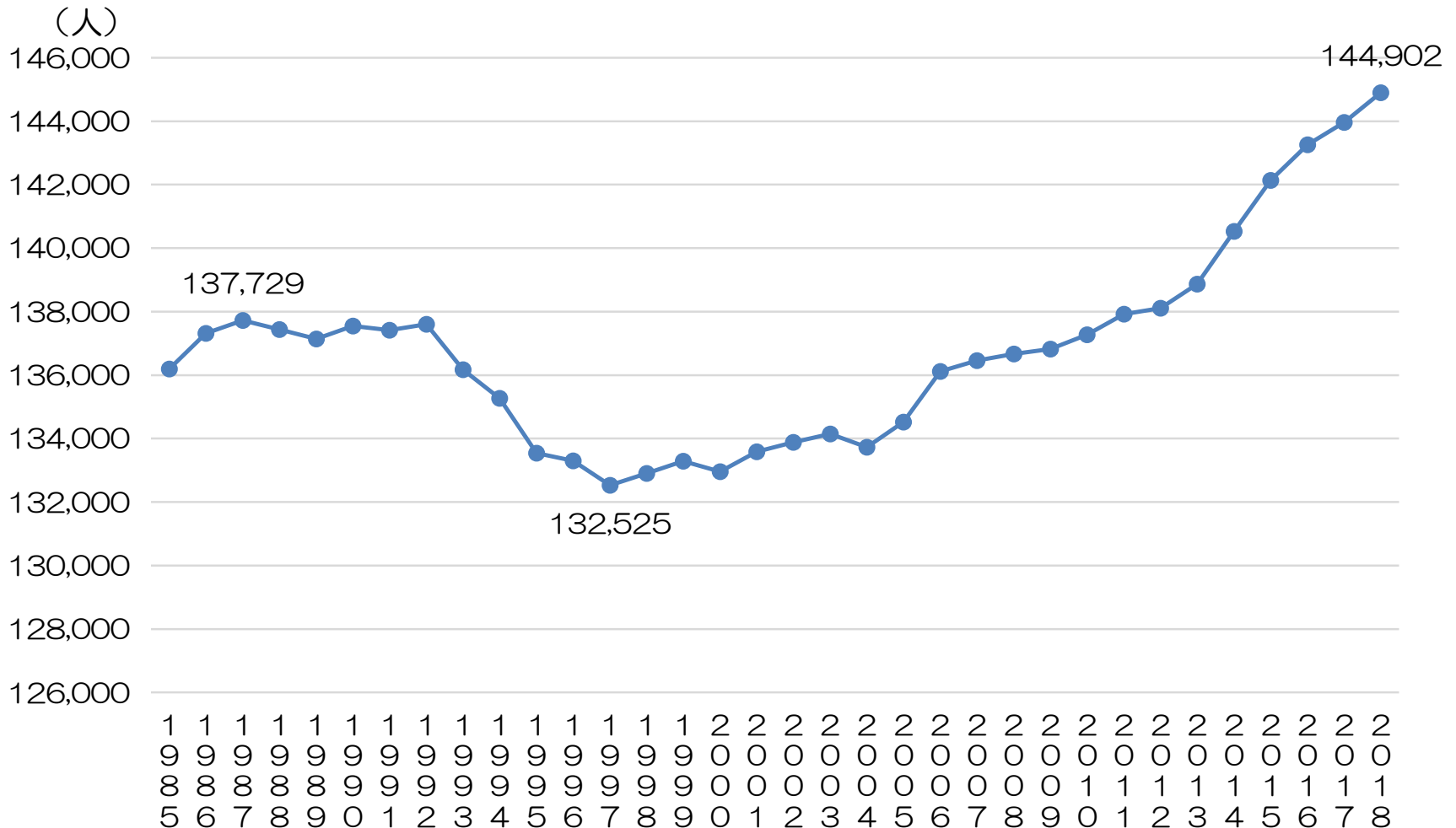
平成30年 7月1日
第六期長期計画市民会議

武蔵野市における 人口の現状について



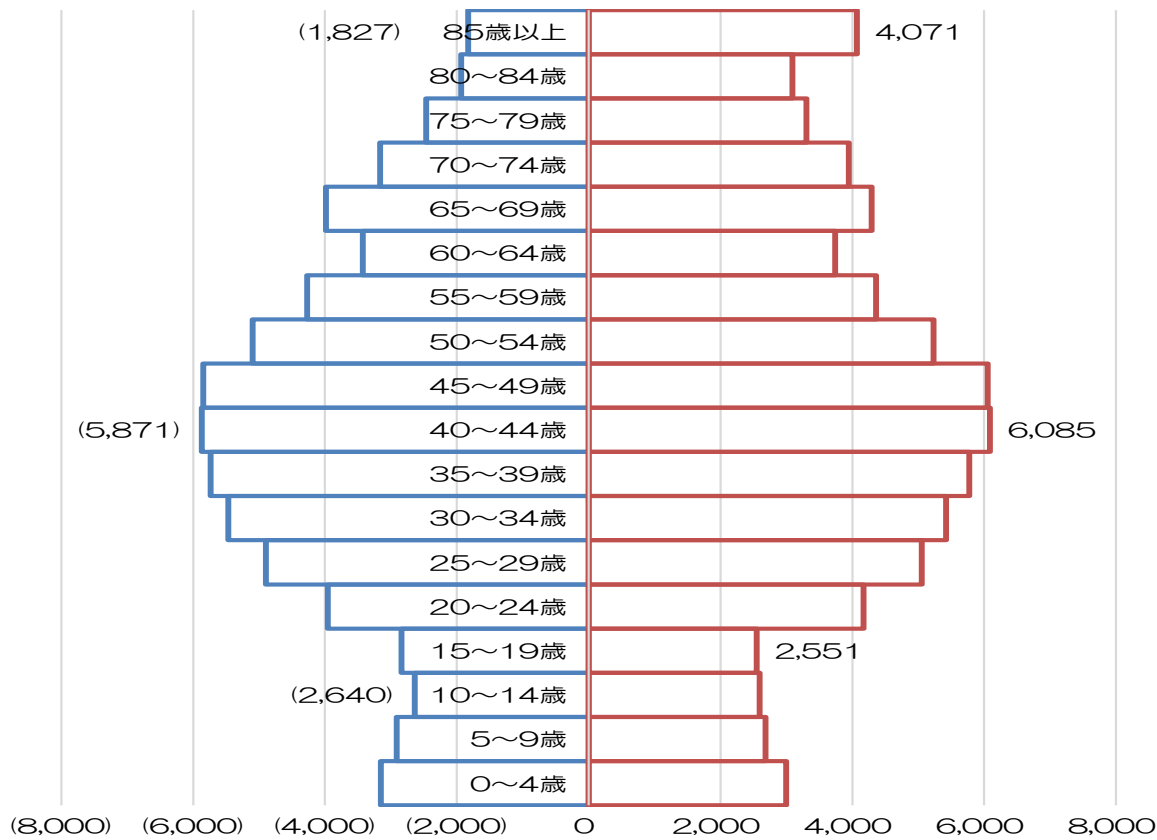
● 総人口の推移

- 昭和62（1987）年に137,729人に達した後、平成9（1997）年には132,525人まで減少しました。その後、再度増加基調に移り、平成30（2018）年には144,902人となっています。



・性別年齢別人口

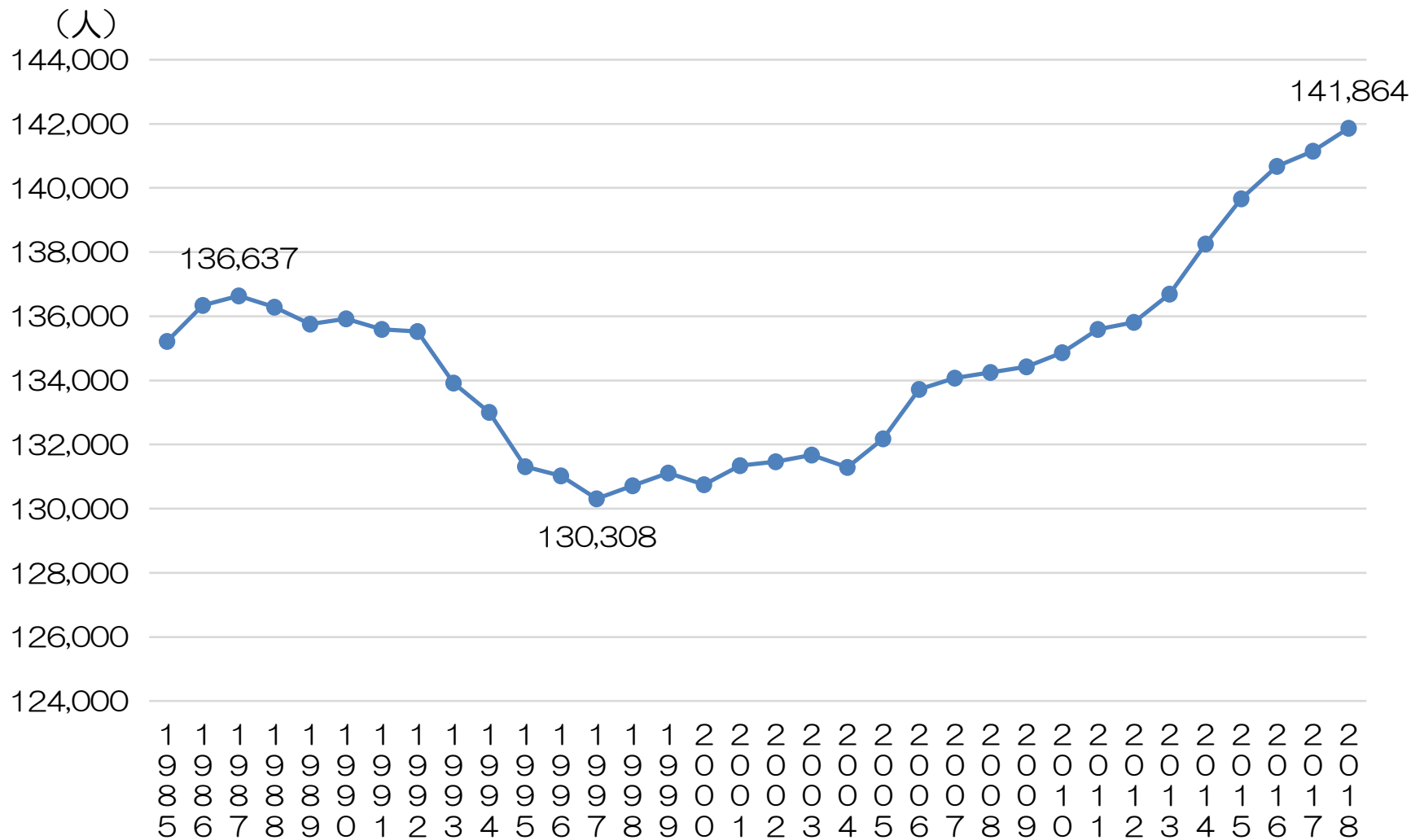
- 男女ともに40歳代が多く、10歳代が少なくなっています。また、高齢になるほど、男性に対して女性の比率が高くなっています。
- 65～69歳と40歳代の部分で隆起が見られることから、第一次ベビーブーム世代（68～70歳、1947～49年生まれ）や第二次ベビーブーム世代（43～46歳、1971～74年生まれ）が多くなっていることがわかります。
- 10～14歳に比べて5～9歳が多く、5～9歳に比べて0～4歳が多くなっており、ここ10年間ほどで出生数が上昇していると考えられます。



平成30(2018)年時点

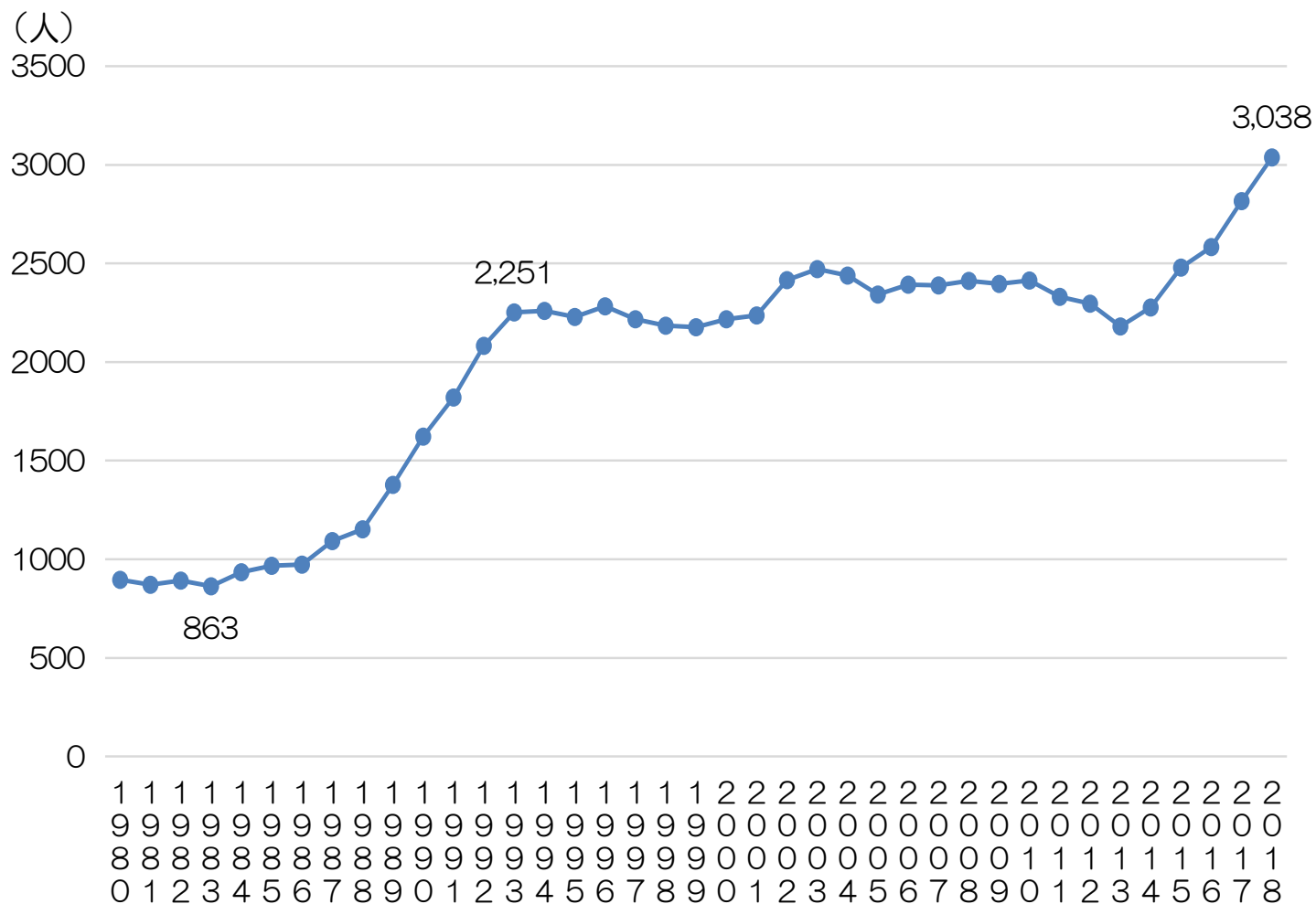
・ 日本人人口の推移

○ 日本人人口は、総人口と同様の傾向で推移しています。



・外国人人口の推移

- 外国人人口は、昭和58（1983）年には863人でしたが、その後増加し、平成5（1993）年には2,251人となりました。その後、約20年間ほぼ横ばいで推移した後、再度増加基調に移り、平成30（2018）年には3,038人となっています。



● 昼間人口の推移

- 昼間人口は、昭和55（1980）年には140,035人でしたが、その後一貫して増加し、平成7（1995）年には153,379人となりました。その後、ほぼ横ばいで推移した後、平成22（2010）年から平成27（2015）年にかけては増加し157,319人となっています。
- また、昼夜間人口比率は概ね一定で推移しています。

	1980 昭和55年	1985 昭和60年	1990 平成2年	1995 平成7年	2000 平成12年	2005 平成17年	2010 平成22年	2015 平成27年
昼間人口	140,035	143,994	152,586	153,379	152,425	154,448	153,267	157,319
調査人口	136,910	138,783	139,077	135,051	135,746	137,525	138,734	144,730
昼夜間人口比	1.02	1.04	1.10	1.14	1.12	1.12	1.10	1.09
登録人口	136,191	136,191	137,546	133,538	132,964	134,521	137,275	142,138
昼間人口/登録人口比	1.03	1.06	1.11	1.15	1.15	1.15	1.12	1.11

注) 昼夜間人口比 = 昼間人口 ÷ 調査人口。登録人口は各年1月1日現在。



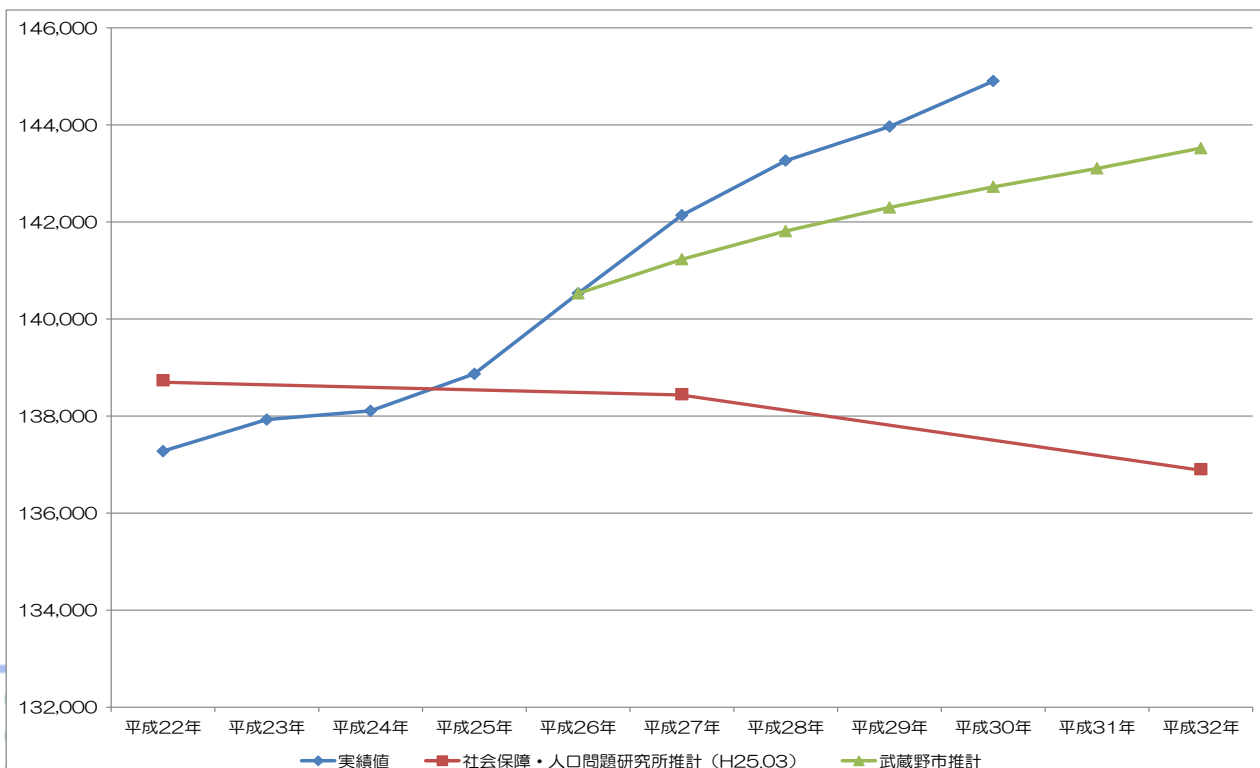
・世帯の推移

- 単独世帯は、世帯数は増加しているものの比率はほぼ一定で推移しており、平成27（2015）年には36,642世帯と、世帯の49.5%を占めています。
- 核家族世帯についても、世帯数は増加しているものの比率はほぼ一定で推移しており、平成27（2015）年には34,491世帯と、世帯の46.6%を占めています。
- 高齢者単独世帯と高齢者世帯主の夫婦のみ世帯の世帯数は、平成12（2000）年にはそれぞれ4,870世帯と4,419世帯でしたが、その後差が拡大し、平成27（2015）年にはそれぞれ8,097世帯、5,964世帯と、高齢者単独世帯が特に増加しています。

	2000 平成12年	2005 平成17年	2010 平成22年	2015 平成27年
(単位：世帯)				
一般世帯	66,820	69,365	71,163	73,960
単独世帯	32,749	34,538	35,631	36,642
	49.0%	49.8%	50.1%	49.5%
核家族世帯	30,172	31,162	32,448	34,491
	45.2%	44.9%	45.6%	46.6%
夫婦のみ世帯	10,416	11,353	12,100	12,589
夫婦と子世帯	15,802	15,670	15,896	17,295
ひとり親と子世帯	3,954	4,139	4,452	4,607
高齢者単独世帯	4,870	5,679	6,895	8,097
高齢者世帯主の夫婦のみ世帯	4,419	5,075	5,381	5,964

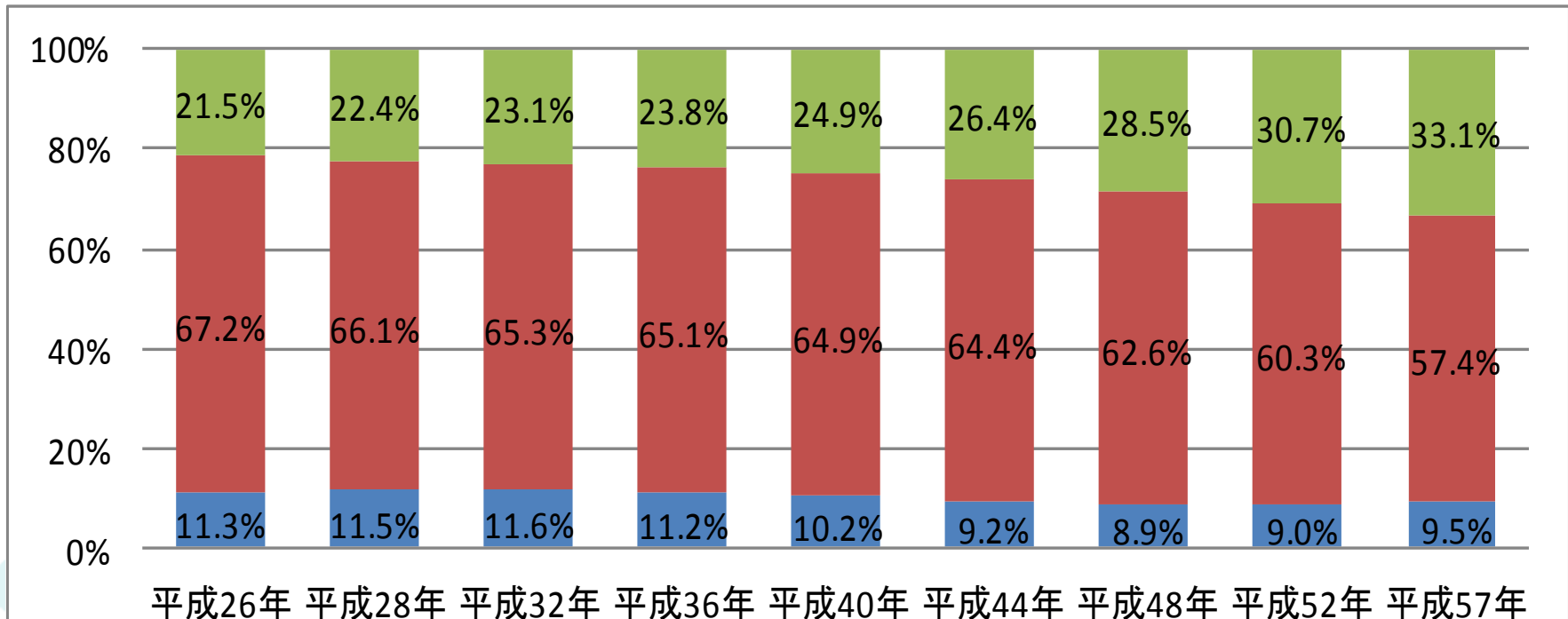
・ 前回（平成26年時点）の将来人口の見通しと実績の推移

- 国立社会保障・人口問題研究所によれば、武蔵野市の人口は緩やかな減少期にあり、継続的に減少していくという見通しになっていました。
- 一方で、武蔵野市では、独自推計によって平成26年以降も人口は増加するという見通しを立てていました。
- その後の実績をみると、平成26年に武蔵野市が立てた見通しをすら上回る速度で増加しています。



・年齢3区分別人口の見通し

- 前回（平成26年時点）の推計では、老年人口（65歳以上）は増加傾向が続き、平成57（2045）年には33.1%（48,338人）に達すると見込んでいます。
- 年少人口（0～14歳）は、当面微増した後、平成49（2037）年に8.9%（12,909人）まで低下、その後、再度上昇に転じ、平成57（2045）年には9.5%（13,838人）まで回復すると見込んでいます。
- 生産年齢人口（15～64歳）は、微減微増を経ながらも期間全体を通じては漸減傾向にあり平成57（2045）年には57.4%（83,791人）まで低下すると見込んでいます。



■ 年少人口 ■ 生産年齢人口 ■ 老年人口

「武蔵野市の将来人口推計（平成26年～57年）」より

・人口の増減の要因

- 武蔵野市は、自然増減よりも社会増減の影響を大きく受けています。
- 自然動態※₁は微増となっているものの、平成17（2005）年以降は社会動態※₂の増の傾向が続いており、これが近年の人口増の要因となっています。

※₁ 出生と死亡による人口の動き：自然増減＝出生児数－死亡者数

※₂ 転入と転出による人口の動き：社会増減＝転入者数－転出者数



【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

・合計特殊出生率

- 武蔵野市の合計特殊出生率は、平成27（2015）年に1.20人になりましたが、全国平均から比べると依然として低い水準です。

